



役職等はすべて取材日時点のものです



令和3年度第3回・令和4年度第1回
釜石市地域ケア推進会議開催



当市の地域ケア推進会議は、▶日常生活圏域の課題を共有するための事例検討▶前回までの課題分析結果の共有と提言案の検討▶提言後の進捗確認とフォローアップの、3本柱で議事が構成されています。

特に、「事例検討」は、事例アセスメントシートを使用した事前課題も踏まえて、多様な立場（専門性）の委員が、各々の視点で課題を捉える重要なプロセスとなっており、地域に何が不足しているのか、自らの専門性で何ができるのか、様々な職種や立場の連携によって解決策となる可能性はないのか等を念頭に、話し合いを重ねています。

◆・◆初の提言「住民の生活と健康を支えるつながり支援」が提出◆・◆

4事例における課題（阻害因子+予後予測）

身体	メンタル	関係性		お金
222	147	218		205
食	価値観	制度	住居	アクセス
96	75	75	66	91

この3月に開催された、令和3年度第3回地域ケア推進会議では、市に対する初の「政策提言」が行われました。

前回までに検討した事例の課題を積み重ねて分析した結果、「身体・関係性・お金」の順で、委員の課題感が大きい事が示されました。但し、「身体」については、市の「安心戦略」等が支えていることから、次点の「関係性（つながり）」を支援する仕組みづくりと、その運用の実現を目的とした提言「住民の生活と健康を支えるつながり支援」がまとめられ、市に提出されるに至りました。

◆・◆令和4年度釜石市包括的支援の仕組みづくり◆・◆

令和4年度第1回地域ケア推進会議は、庁内外の多数のオブザーバーの参加を得て、完全参加型の開催となりました。会議では、3月に提出された提言に対する市の取組状況等の説明と、新規事例検討のほか、課題分析結果の共有が図られました。

また、今年度の新規事業として「包括的支援の仕組みづくり事業」を部局横断的に実施していくことで、提言に対する取組の一部が推進されるものとして説明がありました。

当事業は、地域の医療・介護・予防・生活支援・住まいなどの資源が、個々のニーズに対して適切にコーディネートされた形で提供される仕組みの構築と運用を行い、社会的処方[※]を契機とした住民の社会参加と地域づくりを目的としています。財源は、国のモデル事業「保険者とかかりつけ医等の協働による加入者の予防健康づくり事業」を活用しており、岩手県保険者協議会の委託を受ける形で実施されます。

事業は、主に以下の4つの取組により構成されており、釜石医師会、釜石市社会福祉協議会などの協力も得て、多職種連携のネットワークを活かした釜石市らしい取組が推進されることを期待されています。



- ①かかりつけ医等と保険者との情報連携の仕組みづくり
- ②包括的相談支援体制構築に向けた取組
- ③社会的処方実践に向けた取組
- ④住民主体の地域づくりプラットフォーム構築に向けた取組

孤立・孤独・不安 ～薬だけでは治せないこともあります～

※社会的処方とは、医師が患者に薬を処方するように、課題を抱える方に対して、「薬（地域の活動やサービスなど）」を処方（つながりの支援）をする事で、本人の健康や幸福度の向上を目指しサポートする取組です。



令和4年度第1回地域ケア推進会議 ～事例検討～



事例検討では、地区センター会議（個別ケア会議）の開催がきっかけとなり具体的な課題解決に向けた「好事例」が取り扱われました。前半は、これまでどおり、委員が自らの専門性を発揮できるかどうかなどを考える事例検討、後半は解決のポイントについて紹介する進行となりました。

解決のポイントは、生活応援センターの保健師が中心となって、地域の支援者同士のネットワークをつないで情報

共有したことで、役割分担が行われ、解決に向けて実践されたことでした。

会議当日は、委員のほか、明治安田生命盛岡支社の釜石営業所長とファイナンシャルプランナーの資格を有するチームコンシェルジュ、また、一般社団法人ゴジヨるの代表理事に事例に対する助言者として出席していただきました。

OK はまゆりネット研修会

7月14日、市保健福祉センター9階において、NPO法人釜石・大槌地域医療連携推進協議会（事務局：釜石医師会）が主催する「OK はまゆりネット運用研修会」が、釜石保健医療圏の保健師等を対象に開催されました。

当研修会は、協議会事務局のほか、事務局運営会議の構成員となっている市町＆保健所の担当者の企画運営により実施されています。



研修では事務局から、OK はまゆりネット導入の経緯、構築の経過、機能と可能性、現状と課題等が説明され、その後のグループワークでは、紹介機能をもったチラシの活用について意見交換が行われました。

参加者の中には「OK はまゆりネットを知らなかったので今後活用していきたい…」等という方もあり、たくさんの意見や要望等が出されました。



在宅医療連携拠点事業推進協議会

5月24日、沿岸広域振興局において令和4年度釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会が開催されました。

協議会は、釜石医師会の小泉会長をはじめとする多職種で構成され、事務局から前年度のチームかまいしの各種事業の実施内容や各種調査結果、「連携に関する相談窓口」の対応結果などの報告に続き、本年度の活動推進案についての説明があり、委員の皆さんから承認されました。

昨年度はハイブリッド形式による開催でしたが、本年度は、全員会場に参集し、顔の見える形での開催となりました😊

認知症初期集中支援チーム

H29年の発足から6年目となる「認知症初期集中支援チーム」😊。7月15日、はまと神経内科クリニックにおいて、コロナ禍以降初のメンバーの顔合わせが行われました。

サポート医の濱登文寿先生のご指導のもと、認知症に関する困りごとなら何でも耳を傾けるという初心を改めて、胸に刻んだ決起集会となりました。



問い合わせ先：釜石市地域包括支援センター
TEL:0193-22-2620

各地区の包括ケア体制の充実に向けた取組

地域の包括ケア体制の充実に向けて、市内 8 か所にある生活応援センターでは、ケースを支える地域支援のネットワークづくりや課題（ニーズ）に応じた資源開発を検討する地区センター会議を所管しています。複数回の検討を経て形となった甲子地区と鶴住居地区の取組を紹介します。

🍁おたっしや相談会

6月15日、第1回おたっしや相談会が、洞関地区コミュニティ消防センターで開催されました。

甲子地区生活応援センターから距離のある地域住民を主な対象として、心と身体健康増進や住民同士の交流、税金や各種使用料等の納付に係る利便性向上を図る為に、甲子地区生活応援センターの職員と社会福祉協議会の職員により運営されています。今後は先行していた大橋地区に加えて、洞関地区においても、毎月1回開催されます。



🍁チームオレンジ・はまぼうふう

7月6日、鶴住居地区生活応援センターで、認知症サポーター「チームオレンジ・はまぼうふう」の結成式が行われました。

チームオレンジとは、認知症の方や家族を支援者につなぐ目的で活動する団体の総称で、岩手県内では3番目、沿岸初の結成です😊

今後は「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指して、周知・啓発活動や、集いの場・介護予防の取組を進めていきます。結成式では、オレンジリングが授与され、記念撮影を行いました。



かまいしユニゾン「ささえる事例検討会」開催



かまいしユニゾンの主宰者と講師の鈴木氏と藤原氏

かまいしユニゾンが主催する「ささえる事例検討会」が、7月28日、釜石情報交流センターにおいて、介護支援専門員を中心とした医療・介護・福祉に携わる多職種の参加を得て開催されました。

今回の事例検討会は、釜石市地域包括支援センターが主催する「令和4年度第2回介護支援専門員等研修会」の機会を活用して開催され、市地域包括支援センターのほか、釜石広域介護支援専門員連絡協議会との協働により実施されています。

昨年度に引き続き、講師にはイーハトーブ地域包括支援センター社会福祉士の鈴木智之氏と一般社団法人岩手介護コミュニティ協会代表理事の藤原陽介氏をお招きし、当事者を支

え・支援者を支え・地域を支える事例検討会の開催となりました。

かまいしユニゾンは、当地域のケアの担い手のニーズを実現するために、2016年に多職種からなる有志により結成されており、今回の研修会で、通算5回目の実施となります。



「OK スクラムねっと」研修会

7月12日にオンラインで開催されたOKスクラムネットの研修会では、「みんなで考える地域の社会的処方」と題して、社会的処方の概要について学んだほか、地域活動支援センター釜石の高橋施設長とNPO法人「かだっぺし」支援員の吉田洋子さんの登壇による社会的処方等の提案と障がい福祉に焦点を当てた事例に関する多職種の意見交換が行われました。

高橋施設長からは「釜石市は各地区に生活応援センターがあるのが強み」という意見があり、改めて生活応援センターの有用性が確認される機会となりました。



おしゃち外科クリニック 小笠原 聡 院長

◆ クリニックの概要を教えてください。

医師1名、看護師2名、事務・受付3名、計6名体制で外科（特に甲状腺）・整形外科・皮膚科・内分泌科の診察をしています。また週1回、木曜日の午後は県立釜石病院に行っています。

◆ クリニックの開設に至る経緯などを教えてください。

岩手県内の各地の県立病院勤務をしていた中、東日本大震災があり、その頃から開院を考えました。

県立釜石病院に勤務後、もともと大槌町出身だったため、大槌町に開院を決めました。

◆ 多職種の皆さんへ一言お願いします！

2月2日にオープンして約8か月、やっと軌道に乗ってきた段階です。まだ実感はないのですが、多職種の皆さんとはこれからたくさん関わっていくことがあるかと思っています。

よろしくお願ひいたします m()m



小笠原院長とスタッフの皆さん



おしゃち外科クリニック
〒028-1112
上閉伊郡大槌町大槌 6-5
TEL:0193-57-5656

釜石・大槌
地域の

主任介護支援専門員の皆さんの「顔と名前と心意気#3」をご紹介します！

主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー/主任 CM）は、一定の実務経験や「主任介護支援専門員研修」の受講等が要件となる、介護支援専門員の上級資格です。介護に関わる多様なサービス（医療、福祉、行政等）の連携ネットワークの向上、ケアマネジャーの育成・指導、ケアプラン作成支援、地域包括ケアを進める実践者としての活動、事例検討会開催などの地域課題への取組み…などの役割が期待されています。

あゆみ居宅介護支援事業所 留畑 丈治 さん

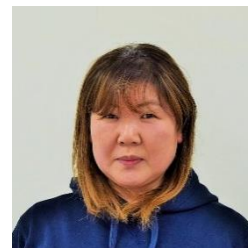
CM 歴：16 年
主任 CM 歴：8 年



- 主任 CM としてのモットー等
利用者・家族の声に耳を傾けた仕事をする事を忘れない。
- 主任 CM として注力したいこと
実務研修の指導者として、後輩ケアマネの育成に力を入れてきました。今後とも顔の見える連携ができたと思います。

あゆみ居宅介護支援事業所 佐藤 眞美 さん

CM 歴：11 年
主任 CM 歴：5 年



- 主任 CM としてのモットー等
皆さんと連携して、利用者及び住民に寄り添い支援できるようなケアマネになりたいです。
- 主任 CM として注力したいこと
多職種の皆さんと連携をしながら、視野を広げ、今後の自身の活動に役立てていきたいです。

あかね会在宅支援センター 菊地 綱喜 さん

CM 歴：22 年
主任 CM 歴：9 年



- 主任 CM としてのモットー等
「一期一会」の精神で利用者の方々に接する事を心がけています。利用者の皆さんの糧になればありがたいです。
- 主任 CM として注力したいこと
まずは、自分作りとして日々自学に勤しむ日々です。

大槌町社協指定居宅介護支援事業所 大釋 久美子 さん

CM 歴：8 年
主任 CM 歴：10 か月



- 主任 CM としてのモットー等
住み慣れた地域で顔馴染みのある方々に囲まれ、自分らしく生活が続けられるように、支援していきたいです。
- 多職種の皆さんへ
各専門分野の方々と連携をとり、利用者様のサポートを行い、適切なケアマネージメントを行っていきたくと思っています。

【発行】在宅医療連携拠点チームかまいし

〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号 釜石市地域包括ケア推進本部事務局

TEL 0193-55-4536 FAX 0193-22-6375 E-mail kea@city.kamaishi.iwate.jp

【HP】<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/category/bunya/tiikhoukatukea/zaitakuiryourenkei/>

【FB】<https://www.facebook.com/teamkamaishi/>

QRコード読み取りでスマホからアクセスできます→

ホームページ Facebook

